

潮騒通信「どっこい生きてます！」

「まずは回復ありき」のダルク原則を踏まえたい

待ちわびた春がやって来ました。スイセンが清楚な花を咲かせ、早くもサクラの開花が伝えられます。3月は巣立ちと別れ、新たな船出の時期ですが、私たち依存症者は季節の変わり目には気分が落ち込んだり、塞ぎ込むことが多くなりがちです。私もこの間、ひどい幻聴に悩まされ、不眠症に苦しみました。人に会うのがとても億劫になり、受刑者の皆さんへ返事の手紙も書けないつらい状態でした。

そんな中にも潮騒 JTC では、2年目を迎えたファイザープロジェクトが本格的に始動しています。引き続き農業プロジェクトを柱にしながら、今年は就労支援の実践講座に取り組んでいます。その第1回(3月8日開催)は、横浜ダルク代表のトム(坪倉洋一)さんに「ダルクの考える就労支援」について話をしてもらいました=7頁参照。ダルクの歩みを振り返りながら、就労支援に特化するはずだった山梨ダルク設立時の裏話や、この計画が頓挫したことで潮騒がジョブトレーニングセンターの役割を担うことになった、興味深い“秘話”などを明かしてくれました。

トムさんは「福祉の恩恵を受けられるようになったお陰で、薬物依存症者がダルクにつながる『入り口』はかなり改善されてきた。しかし、就労に関する『出口』は今も手つかずのままになっている」とし、就労問題が一貫してダルクの困難な課題であることを力説しました。その背景として「ダルクにはどうしても改革しようがない部分がある。回復を第1にするという大事な考え方で、それをうまく次の段階(就労)につなげていくことができていない」と指摘。改めて「ダルクの基本は12ステップへの取り組みにある」と強調しながらも、今やダルクも世代交代と多様化時代を迎えており、そうしたニーズに応える試みの一つとして「潮騒 JTC は困難な就労支援に率先して取り組んでいる」と高く評価してくれました。

私が目から鱗だったのは「ダルクにおける就労支援とは社会の中で行われているそれとは根本的に違う。12ステップを使って回復していく、そのスタイルを持続しながら社会参加していくべきで、自分一人の力だけで物事を決めていくのではなく、周りの人たちの意見を聞き、受け入れ、委ねてみる。すると、今までとは違った結果が現実の中に表れてくる」との言葉でした。かつて私はダルクで回復できたと独り善がりに思い込み、その勢いで独立した際に「仕事をするのが回復につながる」と早合点してスタート時から躓き、プログラムをおろそかにして手痛い失敗を経験しました。窮地に陥った私に、ダルク創設者の近藤恒夫さんは、ダルクの基本を①当事者による自助活動(回復が第一)②仲間を地域に戻す(社会復帰はその次)一の順番で取り組むことを教えてくれました。まさに「まずは回復ありき」です。ファイザープロジェクトで就労支援のきっかけをつかみつつあるだけに、ダルクの原点を忘れずに就労支援のプログラム開発に努めます。(設長 栗原 豊)

SJTC

SHIOSAI JOB TRAINING CENTER

2013(平成25)年

3月号 一部100円

Contents

- P1 「まずは回復ありき」で
- P2 山谷マックが30周年
- P3 セミナー参加者の感想
- P4 とかちダルクフォーラム
- P5 真壁のひなまつり見学
- P6 ジャガイモの植え付け
- P7 就労支援で実践講座
- P8 近藤さんインタビュー11
- P9 全国受刑者からの便り
- P10 拉致被害者救出署名
- P11 しおさい俳壇・特選句
- P12 行事予定&献金献品



潮騒で回復し、社会復帰した

ハルさんが体験講話=記事7頁

開設時からの仲間が節目を祝う

＝山谷マック 30 周年記念セミナーに参加＝

「山谷マック 30 周年記念セミナー」（主催・特定非営利活動法人山谷マック）が 3 月 3 日、東京都荒川区の J R 日暮里駅近くにある日暮里サニーホールで開かれ、これまで同施設にかかわったアルコール依存症の仲間たちや支援者らが大量集まって節目を祝い、新たな歩みに向けて決意を新たにしました。潮騒 J T C からも栗原施設長を含む男女 6 人が参加しました＝写真右。

▼ 2 年前後の入所の後に自立 ▲

山谷マックは、依存症からの回復がまだ社会に浸透していなかった 1 9 8 3（昭和 58）年に、故ジャン・ミニー神父が台東区竜泉に「マック第 5 ホーム」としてオープン（後の山谷マック竜泉ホーム）。地域柄、主に住所不定のアルコール依存症者を対象にした依存症回復施設として機能してきました。

定員は男性のみ 12 人。デイケア（リブ作業所）への通所や就労・社会参加の訓練プログラムなどをこなしています。利用者は夜間の自助グループミーティングに通い、仲間との共同生活という利点を生かしながら、プログラム全体を通じてアルコールを止め続けることから始まり、失った生活の回復や人間関係の修復を目指しています。

現在は生活保護で入所されるメンバーがほとんどのようで、デイケアへの通所期間を含めて原則として 8 カ月以上の入所が必要とされます。利用者の多くは 2 年前後の入所の後に自立しているようです。少人数ながら家庭的な雰囲気を大切にしながらプログラムを提



供し、アルコール依存症者の回復を支援しています。

▼ 仲間のマジックショーで盛り上がる ▲

この日のセミナーでは、山谷マック開設に尽力したメンバーや同施設で回復した仲間たちなど、これまで山谷マックにさまざまな形でかかわった大量の仲間たちが参加しました。下村渥氏（N P O 法人山谷マック理事長）、シスター長谷川敬子氏（聖心会修道女）、宮下忠子氏（元東京都城北福祉センター医療相談員）、石井隆氏（元山谷マック寮長）、井上茂氏（全国マック協議会議長）らがあいさつし、スライド映像で 30 年の歩みを振り返りました。

午後は各地のマック代表や山谷マック O B らがスピーカーを務めてメッセージしたほか、仲間のマジックショーが会場を盛り上げました。

栗原施設長は「最近の潮騒 J T C にはアルコールに問題を抱える入寮者が 6 ～ 7 割まで増えている。同じアディクトでも薬物メンバーとは異なる対応が求められるので、今後はダルクとのつながりだけでなく積極的にマックの皆さんとの関係を深め、いろいろと学ばせて頂きたい。マックにはクリーンが 30 年を超える仲間も多いので、ぜひ潮騒でメッセージをしてもらいたい。現在取り組んでいるファイザープロジェクトの内実を豊かにするためにも、できれば就労して社会復帰しているアルコールの仲間たちに話をしてもらいたい」と話しました。（勝）

←大量の参加者で盛り上がった「山谷マック 30 周年記念セミナー」



「今を生かされていることに感謝」～トム ～山谷マック30周年記念セミナーに参加して～

山谷マック30周年記念セミナーに参加してきました。当日は自分の会場確認のミスもあって到着がやや遅れましたが、無事にたどり着いて懐かしい仲間との再会ができました。感謝です。

今回、30周年記念フォーラムということで潮騒にも声をかけていただきました。私自身も中間施設のその歩みというのはどのようなものなのか、今自分がこの潮騒で経験している思いへのハイパーパワーの気づきを探していました。

仲間の話の中での気づきは、自分は如何なるものなのか、自分の病気を見つめること、第1ステップの大切さでした。振り返ると栗原施設長から同じメッセー

ジをもらっているながら、日々何とかしなければの思いで有力になっていました。だから苦しかった。



最後の山谷グループの仲間の話は笑いを誘いながらも「プログラムで救われた」という思いを熱く感じました。大切なのは今を生きたこと。きっとそれが、今自分が生かされていることへの答えだと思います。自分もこの潮騒で命をつないでいる一人です。生かされているこ

とを感謝しながら、その思いを次の仲間到手渡すこと、それが自分の責任だと感じています。今も、そしてこれからも、仲間と共に。

(写真は左から感想文を寄せたピースサインのトムさん、栗原施設長、パーブさん)

セミナーで仲間と遭い、薬物無しの人生を決意

3月3日のおひなまつりの日に山谷マックの30周年記念セミナーに参加させて頂きました。時間の関係で最初からの話は聞けませんでしたけど、マジックショー、山谷マックOBの話などとても楽しく、とても良かったです。セミナーに参加できてなりよりも感動したのは、私が2年前に所属していた、横浜マックの仲間が来ていたことでした。7年間薬物をやめていたもののスリップしてしまい、その事を知っていた仲間なのに、とても暖かく私を受け入れてくれた事にすごく感動しました。何も言わず、聞かずに、逢えた事をとても喜んでくれました。私もその事がとても嬉しく、その仲間たちがとても輝いているように見えて、羨ましく思えたほどでした。でも、今度こそ薬物をやめて薬物無しの人生を歩んで行こうという気持ちになれました。どんな遠く離れていても仲間っていいな、と思いました。私もその仲間たちに負けずに、これからは潮騒JTCで薬物なしの人生を歩いていくために頑張っていきたいと思っています。またどこかで、仲間たちに逢える事を楽しみにしています。今回のセミナーに参加できてとても良かったです。ありがとうございました。(イルカ)

真壁の雛流しイベントに感動

まだ春遠い3月初旬、真壁のひなまつりを施設の皆様と訪れる機会に恵まれました。私は沖縄生まれの沖縄育ち。初めて春風の中で味わう、ひな流しの風習に触れ、現代の童の和の風を感じ取り、子供達の無邪気さに、子を持つ親として息子の成長を思い感動させられた一時です。真壁のひなまつりは、明治、大正、昭和の時代の流れのなかで、おもてなしの心を感じ取ることができました。訪れた人びとの中に着物姿の老夫婦が見受けられ、御主人の朱色の掛け襦に春を感じ、楽しい一時を過ごす事ができました。古い家屋の町並みと飾られているひな人形に、人々の生活の中で和の心の大切さを改めて感じ取りました。(さゆり)

＝5分に真壁雛祭り見学の記事

NPO法人化で記念フォーラム開催

《栗原施設長が参加、とかちダルクにエール送る》



昨年3月の開設フォーラムに続き、今年も「特定非営利活動法人とかちダルク法人設立記念フォーラム」が2月24日、北海道帯広市のJR帯広駅に近いとかちプラザで開かれ、各地から延べ約200人が参加しました。前年に続き、潮騒JTCからは栗原豊施設長が遠路参加し、いち早く法人化に取り組む、とかちダルクの施設運営に大いに刺激を受けました。

とかちダルクは北海道ダルク（札幌市）で回復した宿輪龍英理事長が、より地域に密着した回復活動を展開するため2011年9月に北海道ダルクから独立し、帯広市内に「とかちダルクケアセンター」として開所。昨年9月には法人認証を受け、グループホーム（共同生活援助）と自立訓練（生活訓練）事業所を設置し、アディクトの仲間たちの利用を募っています。

今回は法人化を記念したフォーラムで、テーマは

「回復の希望～仲間と共に」。ゲストスピーカーに松本俊彦氏（国立精神・神経センター精神保健研究所・自殺予防総合対策センター）、近藤恒夫氏（日本ダルク代表）、市川岳仁氏（三重ダルク代表）を迎え、それぞれの立場から興味深い講話をしました。

このほか、とかちダルクの活動内容の紹介、スライドショーの上映、仲間の話などで盛り上がりしました。栗原施設長は「体調が思わしくないで今回はフォーラム参加を遠慮させてもらおうと思ったが、来てよかった。宿輪理事長からは草創期のパワーをもらい、潮騒の運営にも励みになる。利用者の確保などの課題を創意工夫でクリアしてほしい」と新たにPOとして船出したとかちダルクにエールを送りました。

（写真提供：NPO法人アパリ事務局長の尾田真言さん。お忙しい中ご協力頂き、ありがとうございます）



NPO法人とかちダルクの宿輪理事長⑤
と栗原施設長②帯広市のとかちプラザで

= あなた方が主役です。3月誕生日の仲間たち =



3月誕生日の仲間たち、（左から）コタロウ・ケン・ヒロ・シマ・タツヤ・コブラの皆さん



女性メンバーらが真壁の雛祭り見学

「寒い中、真壁に来てくれる人をもてなそう」と住民の素朴な思いから始まった真壁の雛祭り。歴史ある町割り、300棟を超える見世蔵、土蔵、門などが軒を連ね、うち104棟が国の登録有形文化財に登録され、国重要伝統的建造物群保存地区に選定されている桜川市真壁町で開かれた話題の雛祭りを3月1日に、潮騒JTCの女性メンバーのほか、高齢の男性入寮者らも加わって総勢11人で見学しました。当日は民放テレビ放送後とあって観光客のイモ洗い状態でしたが、珍しい「雛流しイベント」を体験できました。風情ある町並みの中に江戸から明治、大正、昭和、平成までの雛人形、手作りのつるし雛、地元特産の御影石で作った雛人形などを鑑賞しました。雛人形を飾る家は160軒を数え、期間中に約10万人が訪れたそうです。



●真壁のひなまつりによせて～久しぶりに人混みの中を歩いて、ちょっと疲れました。たかがおひな様、されどおひな様、小学生の流し雛もあってか、たいそうな人出でした。それもそのはずで江戸時代後期の人形は、圧巻でした。それらは遠い昔から大切に受け継がれてきたのでしょ。う、そんな風におひな様の風情は幽間に収まっていて限り

ない奥行きのある美しさとなってゆくのだと思いをはせました。誇らしげに、華やかに、又おごそかに、それぞれに飾られた人形達に会えて本当に良かったと思いました。町の人達も親切にいわれを説明してくれ「おもてなしの心」も強く感じ、感動しました。見学できたことに感謝しています。有り難う御座いました。(しま)

「潮騒青塚農場」でジャガイモの植え付け

農業隊は通称「潮騒農業自然隊」に決まる

継続助成を受け、今年も取り組んでいる潮騒ファイザー・農業プロジェクト——。その中心となる荒れ地開墾事業で整備した第2農場の「潮騒青塚農場」で2月26日、ジャガイモの種イモ植え付けが行われ、青塚農場が本格的にスタートしました。今回の作業では助っ人を含む農業隊メンバーが広さ約10畧の畑にジャガイモを植え、5月末頃に収穫する予定です。

当日は普段仕事をしている「仕事隊」のメンバーや他の潮騒の仲間たちなど約40人が参加し、トラクターで整地され黒い農業用ビニール（マルチ）で覆われた場所に、間隔を開けて種イモ

を植え付けました。作業に当たったカズさん（29）は「元々農業高校に行っていた。（畜産関係の）牛はやったことがあるが、農作業は初めて」と、文字通り“畑違い”の初めての農作業にチャレンジしていました。

この日の植え付けにこぎつけるまでには、昨年夏からの開墾に始まり、天地返し、牛フン10ト、ぬか600キ、油かす400キを入れて土づくりを行い、自然の発酵菌を入れるなど、手間ひまを掛けて畑づくり

に努力してきました。また、ジャガイモの植え付け日も、「雨が降って水分があると、イモが凍ってしまう」「しかし畑が乾かし過ぎてもダメ」ということで、天候を見計らって好天の日に決行しました。

昨年まで荒れ地だった場所が畑に生まれ変わってい

る様子に「地元の人々が『荒れ地が畑になって喜んでいる』と言っていた」との反応もあったとのことです。今回の農作業で中心的に活動したヒコさんは「マルチ掛けは初めて」としながらも「自分たちでも驚くぐらい土手づくりが大変だった。これで5月末にジャガイモ



収穫ができる」と安堵の表情を浮かべました。また「機械が追いつかなかった。思ったより（種イモ植え付けの）ペースが速かった」と、仲間たちの努力に感心していました。（崎）

◇ ◇ ◇

なお、潮騒農業プロジェクトに取り組む農業隊はワーキンググループ会議での話し合いの結果、通称を「潮騒農業自然隊」と名付けることが決まりました。

★種イモ植え、意外と楽しかった
潮騒ジョブトレーニングセンターに来て早くも1カ月が経ち、ここでの生活もだいぶ慣れてきました。先頃、農業プロジェクトに参加し、初めてジャガイモの種イモ植えをしました。最初は範囲が広く時間が掛かりそうで、午前中にはとてもじゃないけど終わりのそうにないように思いましたが、全員参加だったので、思ったよりスムーズに植え終わることができました。最初は面倒な作業だと思いましたが、やってみて意外と楽しかったです。また、5月に収穫があるので楽しみです。農業って意外に楽しいかも。
(リフ)



継続助成を受けた潮騒ファイザープロジェクトの柱となる農業部門で、ジャガイモの種イモを植え付ける潮騒の仲間たち。鹿嶋市青塚の潮騒青塚農場

ファイザー就労支援実践講座始まる

=横浜ダルク代表らと潮騒OBが体験講話=

継続支援を受けて取り組む潮騒ファイザープロジェクトは今年、より実践的で就労への意欲や動機を引き出そうと計6回の予定で「就労支援実践講座」に取り組んでいます。月に一度のペースですが、依存症から回復して社会復帰し、職業を得て仕事をしている先行く仲間の皆さんに体験談を聞くほか、依存症者の就労について必要な知識やスキルなどを助言していただきます。また、就労支援に関係する公的機関・団体の方をお招きして幅広い視点から就労についてアドバイスや利用できる制度などについても勉強していく予定です。ハローワークの利用の仕方、企業訪問の際の留意点、履歴書の書き方やビジネスマナー、面接の受け方などもメニューとします。

第1回就労支援実践講座は3月8日、鹿嶋市まちづくり市民センターで開かれ、横浜ダルクの仲間2人の体験談に続き、施設長のトム（坪倉洋一）さんが「ダルクの就労支援」について講話しました。トムさんはダルク草創期には就労支援が回復支援と同時に進められていたことを明かし、当時は仲間が外に働きに出て「自分以外の仲間のために経済的に支援していた」と説明。その後は外でのアルバイトより自分の回復に徹底的に取り組むことが求められ、1～1年3カ月はクリーンを積み重ねて、自分が霊的に目覚めていくことに取り組むようになったようです。そうしてダルクは「入り口」はできたのに「出口」がないことに気が付き、生活保護受給や自助グループ参加など、社会に出ても自立が困難なまま今に至っているとしました。

山梨ダルク設立時には就労問題に挑みましたが、ダルクに対する地域企業の理解や認知度などから構想を断念。トムさんは「ダルクの抱える宿命みたいなもの



横浜ダルク施設長のトムさん

のかもしれない。ダルクはどうしても改革しようがない部分を抱えている。回復を第1にするという考えがあって、うまく次につながっていかない」とし、ダルクにつながり回復しても「社会復帰する際には、自分でハローワークに行ったり、つてを頼って職探し

をして仕事を得るしかない。ダルクは具体的に就労支援の形を示せないまま来ている」と指摘しました。

■ハルさんが入寮者に希望のメッセージ

引き続き、潮騒 JTC の OB で、今は社会復帰して調理師として活躍しているハルさんが「施設で回復した後に、就労問題でぶつかった困難など体験を話してくれました。アルコール依存症の回復者としては「潮騒の優等生」とされるハルさんですが、その社会復帰の歩みは決して順風満帆ではなく、一度はスリップ（再飲酒）の危機に見舞われましたが、地域の自助グループメンバーとの偶然とも運命的とも言える出会いによって再度、自立の道を歩むことができました。

ハルさんは「あの時ハイパーパワーを信じ、自分の足で自助グループに通えるようになったこと、そして何よりも仲間とつながっていることが就労でも大事だと教えられた。まさにプログラムによって、“変えられないものを変えていく勇気”を頂いた。皆さんも焦らずに社会復帰を目指してください。僕もずっと潮騒とつながっていきます」と入寮者の皆さんに希望のメッセージを与えてくれました。(み)



近藤恒夫氏インタビュー「薬物依存と回復の権利」VOL11

そろそろ依存症といわれる人たちへの投薬の仕組みを考えなければならない段階なのかもしれない

●成長や霊的に目覚めるなんてどこにもない

近藤 確かに処方薬依存でヨレてしまった受刑者に必要なのは医療刑務所だ。でも、ああいう薬(向精神薬)は途中では切れないじゃない。どっちみち悪化して刑務所から出てくる。まあ、どのみち良くならないだろうけど。彼らの楽しみがさ、薬だけというのはかわいそうだよ。そのことによって時間を忘れたいわけだから。素面では生きられない。彼らには時間の流れが健康な人とはまったく違う。

朝起きて薬飲んで目が覚めても、一日中またボーっとしている。そうしてまた薬を飲んで、日がな一日ぼんやりしている。そんな毎日が続いていたら、人間的な成長や霊的に目覚めるなんてどこにもない。だから投薬治療が必要な人たちのダルクは、どこもスタッフが大変だ。スタッフ自身が薬飲んでいるところ、結構あるんじゃないの？

—そうですね。薬が必要な人たち、スタッフの中にも結構いますね。そうすると課題は、もうダルクの手に負えるものでなくて、この国の精神医療のあり方に問題があるんじゃないですか。

近藤 そうだね。そろそろ依存症といわれる人たちへの投薬の仕組みを考えなければならない段階なのかもしれないな。

—その辺りの事情、外国ではどうなんですか？

近藤 薬が必要な人は、ずっと病院に入っている。病院で薬を切るのが外国では普通なんだよ。病院で

投薬治療をやめてきたら、初めて施設がその人を受ける。薬を施設に持ってくるのは非常識もはなはだしい。茨城ダルクなんかは急性期の断薬は病院に任せるけど、その後のリハビリはダルクと決めて県立の精神科病院と連

携している。茨城方式とか呼んでるようだけど、今じゃほかのダルクもやっている。

●病院を出されたらホームレスになるしかない

近藤 もともとアルコールとクスリのない文化がダルクなのに、いつの間にかスタッフが一生懸命、「これがみんなに飲ます今日の分の薬」ってな調子で、その日の処方薬の管理を、楽しみながらやっているというんだから。それが仕事になっているというんだからおかしな話だろう。うち(日本ダルク)の場合は(アパリ)クリニックだから、そういう人たちは特に施設に残るんだよな。

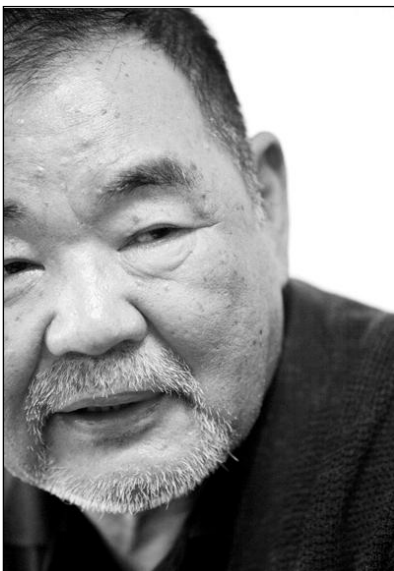
—依存症の後遺症で幻聴が聞こえる人たちがいる。そのために精神科で処方薬をもらう。すると切れなくなって処方薬依存の悪循環に陥る…。

近藤 もはやリハビリという感覚ではないよね。そういう治療のできる医療付きの施設って、ないんだよね。医者がちゃんと常駐してさ。いつの間にか病院じゃなくてクリニックが乱立してきたじゃないですか。厚労省の方針は、病院で面倒見るんじゃなくて患者を地域に戻す。だって入院すると、入院治療費が高いから。9万ベッドある中、7万ベッドに減らす、と。要するに2万人を外におっぽり出すわけだ。

でも、放り出される人たちは自分の頭でもの考えることも何にもできないレベルの人たちだから、介護や支えの社会保障やそれなりの受け皿がなければ、とても地域で普通に暮らせない。結局はホームレスになるしかない。その人たちを「ダルクで面倒みて」と言われても困る。虫が良すぎるよね、国は。

—2年後にはダルクも30年になりますけど、ダルクにつながる人たちはいろんなルートで来るようになりました。生活保護も受給できるようになったことから、昔に比べたらとりあえず「助かる」ようにはなりました。一方で、ダルクの守備範囲を越える難題が次々に持ち込まれている。なれない仕事を押し付けられ、スタッフがつぶれるのも分かります。そういう意味でダルクは転換期にありますね。

(次号に続く)



全国受刑者の皆さんからの手紙～潮騒通信「どっこい生きてます！」を読んで**■弱者に潮騒はなくてはならない最後の灯**

今回お便りの中で、少数の不振得者のトラブルの件が書かれてありました。詳細は分かりませんが、単に依存による失敗によって起きたトラブルとは次元の違うものと推察されます。施設には薬物やアルコールによって、更生を望んでいるのに失敗してしまい、最後のチャンスとして貴施設へ薬をもつかむ思いでお世話になっている人が多数だと思います。このような弱者(私も含め)にとっては、施設は無くしてはならない存在であり、最期の希望の灯りだと思っております。その中で今回のようなトラブルを起こす不心得の人には憤慨を覚えます。

施設長、及び職員の皆様におかれましては、大変な苦勞であろうと思いますがどうか施設の運営の存続の為、ご奮闘をお願いする他ありませんが私の方から何かご助力出来ないのも歯がゆい気持ちで一杯です。幸い、ペナルティーが解除されたとの事で、最悪のケースは免れたようであられましようが、再び同じトラブルが起きない様に皆が心一つになって欲しいものです。

(北海道 M・K)

■満期、仮釈にかかわらず世話になりたい

過日、栗原様よりの便りの中に、刑務所より仮釈で出て来てもなかなか居つきません。どのようにしたら自分の病気に真剣に取り組んでくれるのかと悩んでいますと書いてありました。今回の便りの中にも栗原様自身の経験から、回復への希望は捨てていませんがこうした形で理想と現実の相克に悩み続けていますとありました。今の私には栗原様の悩んでおられる気持ちがよくわかります。しかしながら私は今は正直自分の事だけしか考える事が出来ず、とにかく栗原様にすぎるより他に術はありません。私は以前より申し上げております通り、今回を最後にして薬とは縁を切る決心は堅くその為にどうしてもサポートが欲しいのであります。ですから私は今回満期であろうが、仮釈であろうがそんなことは全く関係なく潮騒JTCにお世話になりたいのであります。何卒よろしく願い申し上げます。(北海道 H・S)

■人間とは実に身勝手な生き物だと思う

…私も精神的に成長したのか、年をとったのか分かり



ませんが、近ごろ人間とは実に身勝手な生き物だなあと心底思っております。というのも、自分の期待している事が、上手くいかないとすぐに人のせいにしたり、あるいは物のせいにしたりと進行してイライラが募り、ときには裏切りと思いこみ、人を恨んだり憎んだりするようになる事に気付きました。特に刑務所のような閉鎖的な境遇にあっては尚更です。最近では、自分のこのような心の変化を自制して何事にも対応しております。常日頃から自制心を忘れず心がけて生活する事で、今後の人生の実となると信じています。(北海道 H・M)

■私はやはり依存症という病気なんだと自覚

私は今回、だいぶ長い間クスリとは縁を切った生活をしてきましたが、心の中ではやはりクスリを忘れられない気持ちがあったのだと思います。生活保護で暮らしていた身ですので、クスリを購入する余裕などはありませんでしたが、ただでくれるという言葉に誘われて使用してしまいました。全ては自分の意志が弱かったのかもしれませんが、私はやはり依存症という病気なんだと今、自分でも思います。病気なのだから治療しなければならないし、不治の病ではないと思うので、栗原さんの元で私と同じ苦しみを持つ人達と共に病を克服していきたいと思えます。(北海道 Y・K)

■“ダルクツアー”の果てに病気の深さ思い知る

ダルクの件ですが、本当に覚せい剤を止めようと思っても誘惑に負けて覚せい剤に手を出してしまうかも知れない場合、何処に行ってもやる時はやるのですから、いっそ精神病院へ入ってしまえば、やりたくてもやれないので、その方が私にとっていい方法だと思います。私は精神病院を選びますのですみませんが、行かせて下さい。お願いします。施設長のご恩は忘れません。精神病院は、楽な場所ではない事は分かっています。

(愛知県 I・F)

【インフォメーション】受刑者の皆さんからの手紙は栗原施設長が必ず目を通してありますが、このところの体調不良により、返事を書く作業が遅れがちになっています。今後も受刑者の皆さんとのコミュニケーションは大切にしていく所存ですので、どうかご辛抱ください。(M)

潮騒有志が北朝鮮拉致被害者救出の署名活動に参加

生きているのになぜ会えないのか！——北朝鮮に拉致された日本人拉致被害者の早期救出を求める署名活動が3月10日に水戸市のJR水戸駅であり、潮騒JTCからも仲間たち有志が参加して熱心に署名を集め、「拉致家族の悲しみが痛いほど伝わった」と話していました。以下はサカさん（写真右端）のレポートです。

今年2月に続き、今回が2回目の参加でした。正直、北朝鮮拉致被害者については新聞記事等で目にはしていました。失礼ながら他人事としか考えておらず、私自身興味すらないのが現実でした。また見知らぬ土地の人通りの多い駅前で、声を張り上げて署名してもらうなんて、もってのほかでした。

そんな私でしたが、通りすがりの人々の気持ち伝わるくらい、自ら署名して下さる人々の多さに「世の中捨てたもんじゃないな」と感じました。拉致問題が老若男女問わず、これほど高い感心が持たれ、理解されている現実、己の勉強不足と情けなさに恥じ入りました。

もっと多くの人にこの実感をわかって欲しいとすら思えるようになり、声もだんだんと大きくなり、1回目より2回目の方がより力が入ったように思います。



まだまだ勉強不足の私ですが、これからは社会問題にも目を向け、今後の署名活動に力を入れていきたいと思います。

やはり、自分の身内が理不尽にも拉致されたと考えると、これは絶対に他人事終わらせられない問題であると感じました。一日も早い救助

を願って、この問題に真正面から向き合いたいと、心から感じた署名活動でした。一人でも多く理解していただけることを祈りつつ…。

(サカ)

～2月句会入寮者作品～

しおさい俳壇

～選者＝桐本 石見先生～

雪達磨思うにならず顔かたち

(オ)

人間は何事でも遊びに変える。鹿島市にも珍しく雪が積もり、子供も大人も雪達磨を作る。顔も形も思う様に出来ないが、顔形の異なるのも人の違いに似て面白い俳諧の句です。

春寒の夜風に出て下津浜

(ミ)

下津浜は鹿島神宮の東、太平洋岸の地名の一つで昔から海水浴場としても名がある。また春寒は初春の頃の寒さを云う。浜に出てみたが夜風はまだ寒い、如何にも初春の句。

梅咲ひて学びへたり鹿島立ち

(フ)

原句の「この道学び」が何の学びか不明だが、梅の咲く頃は学校で卒業式がある。鹿島立ちは昔の防人の故事から出発の意味でもある。作者も研修を終え鹿島を離れるのかも。

似合ひたる防水バケツ雪達磨

(ホ)

雪達磨を作る時にバケツを利用して雪を集め、その後で達磨の帽子にする景はテレビなどでも見かけますが、赤い消火バケツは白い雪達磨に似合う、実感の子供心の句です。

童心に帰る雪達磨

(ト)

雪達磨は子供は無論大人も作るが夫々に思いは異なる。大人が作るのは子供や家族のためが多いが、作るうちに自分の子供の日も思い出す、私も故郷の小学校を思い出す句です。

雪達磨日の照る午後は泣き顔に

(ニ)

原句は少し変えましたが、これで朝作った元氣そうな顔の雪達磨が日に融けだして目や口も泣き顔に見える句になります。この鹿島では半日で雪が融ける、哀憐の句です。

夕日浴び寂しげなるかな雪達磨

(カ)

雪達磨も昼間は子供達に囲まれて楽しいが、夕方の校庭や路地に置かれて目や口の取れたのは寂しく可哀想でもある。私にも「雪達磨日暮れおのづと辻仏」の句があり懐かしい。

雪達磨幼き頃の笑い声

(キ)

雪が降れば達磨や雪合戦をし、夏は川や海で遊ぶ。そこに子供の理屈無く笑い声や笑顔、時には泣き顔もある。たまに降った雪に達磨を作り、自分の子供の日を懐かしく思う。

雪達磨幼き頃を思い出す

(ク)

この鹿島でも雪が降れば大喜びで子供が雪達磨を作る。人夫々に故郷も友も異なるが、子の日の思い出が甦る。年を重ねた今と、白い純真の雪達磨と比べて切ない思いの句です。

老いてなほに残る雪達磨

(シ)

原句は「万年」で、少し大袈裟なので変えました。人夫々に雪達磨一つにも故里や子供の日や家族の思い出があり、齢を重ねると涙が出るほど懐かしい雪達磨もあります。

しおさい俳壇・秀逸句コーナー

道々に手形あまたや雪の朝

(カト)

珍しく雪が降ると交通も大変だが、子供達には大歓迎。登校の道などに積もった雪に手形を付いたり、雪合戦などに戯れる。原句を少し変えました。これで景の見える実感の句になります。

かまくらで夢を見てゐる雪達磨

(長吉)

「かまくら」は雪洞で、本来は秋田県の水神様を祭る行事の一つ。今では雪国の観光の一つでもある。その「かまくら」の中に小さい雪達磨があるのか、達磨さんも子供の様に夢を見る。微笑ましい一句です。

雪国に老いこんこんと雪達磨

(オトウ)

「こんこん」の意味を昏々とすれば、深く眠る意かも。雪国と云えば四カ月ぐらいいは雪に閉ざされ山も川も眠る。また老いた人も家の中に暮らす日が多く眠りに似る。外の雪達磨も子等が帰ると眠る。老境と雪国の思いを重ねたしみじみとした句です。

親の手も貸せとせがむ子雪達磨

(ユタカ)

雪達磨を作るのも始めのうちは簡単だが、大きくなると力が必要。しかも上に積むのは難しい。子供が手伝えとせがむのは微笑ましい景で、家族の睦まじさを彷彿させる句でもあります。

雪達磨縄でネクタイスノーマン

(ヨシハル)

雪達磨は、現代では目鼻は木やプラスチックなどを使いますが、昔は炭などを用いた。この達磨さんはネクタイにロープタイの縄をしてい。如何にも昔と現代の混合でユニークな句で面白い。

雪達磨思ひをはせる我が妹子

(トム)

妹子は昔は妻か恋人のことですが、この句ではどうだろうか。久方に雪が積もり、子供達の作る雪達磨を見ながら、昔の恋人を思い出しているのかも。学生の頃好きな子と雪合戦をした日を思い出す、懐かしい句です。

おめでとう！！
今月の特選句です

雪達磨何を見詰める何思ふ (サカ)

達磨は禅宗の達磨大師のことで、印度に生れ、中国少林寺で面壁九年の行で悟りを開いたが、その間に手足を無くしたと謂われる。雪達磨も昼間は子供と遊ぶが夕方方は禅の如く座す。雪達磨を我が身に代えて思うしみじみとした句です。

深々と雪降り積もる雪達磨 (カツミ)

この鹿島地方では半日ぐらいいしか雪も降らないが、青森や秋田県などでは何日も降り続き、文字どうり深々と積もる。その中に作った達磨は何時の間にか埋もれてゆく、達磨の只管打座(しかんだざ)の姿も禅を思う句です。

霜降りて老舗の暖簾店仕舞ひ

(潮騒・稔)

地方により遅速はあるが晩秋には霜を見る。この句の老舗は観光地の店かも、霜が降り冬を迎えるので暖簾も片付けて閉店する。山小屋も冬は閉じるがそれらを彷彿する句です。

眼を閉じているだけのこと冬籠

(北海道・章三郎)

冬籠りは雪国などで田畑の仕事が出来ない間家の中で籠もる様に生活すること。現代では薄れてきたが、それでも老人や特殊な環境の人には冬籠りに思える。「眼を閉じるだけ」で他に用もない生活に俳諧の哀れを思いう一句です。

草萌えの空へも展く十勝かな

(潮騒・豊)

北海道は広大な平野が広がる。ことに十勝岳の裾野の、富良野や帯広などの畑はゆるやかな丘陵の畑が広がり空の広さも思う。草萌えに大地も空も展く思いのする景の大きい句です。

Information

行事予定 (3月中旬～4月初旬)

- 3月10日 秋元病院メッセージ (16日も)
16日 NPO法人・栃木ダルク10周年記念フォーラム
18日 新宿「とまりぎ」アルコール問題相談業務
24日 潮騒3月家族会
25日 潮騒JTC入寮者3月誕生会
27日 潮騒俳句会 (しおさい俳壇) 3月例会
28日 しおさい映画鑑賞会 (1～3月誕生日の入寮者)
31日 アディクションセミナー
4月5日 潮騒ファイザープロジェクト第2回就労支援実践講座



献金を頂いた方 (1月15日現在)

- ▼山下 佳子様 (プー横丁保育園)
- ▼河田 美恵子様
- ▼坂口 政治様 (潮騒JTC卒寮者)
- ▼坂西 ミヤ様
- ▼小橋 ひとみ様
- ▼石井照明 (イグナチオ教会マヌエル・エルナンデス)様

献品を頂いた方 (1月15日現在)

- ▼坂口 政治様
- ▼堀内 誠様
- ▼山下寝具様

☆そのほか匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させて頂いております。どうぞご理解の程をお願いします。

【施設からのお願い】潮騒JTCでは入寮者の急増に対応して、移動用に使う中古自動車の献品を求めています。格安で譲って頂けると助かります。できればワゴン車が有難いです。宜しくお願いします。

編集・発行

特定非営利活動法人

潮騒ジョブトレーニングセンター (本部)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台210-10
TEL/0299-77-9099 FAX/0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム (中施設)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中2773-16
TEL/0299-69-9099 FAX/0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鉾田

〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木1113-39

E-MAIL k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

編集後記

3・11大震災から2年となり、各メディアは「あの悲惨を風化させるな」と特集を組んだ。テレビ各局は金太郎アメよろしく、記念日に「復興の遅れ」を嘆くものばかり。でも、去年も同じ論調だった。恐らく来年も「震災から3年で同じことを言うのだろう。復興が進まないのは、この国のダメな政治が主因だとしても、記念日特集を免罪符に被災地の困難な日常を他人事にしてしまふ、僕らの精神構造にも原因があるように思う。茨城も被災県で、潮騒も一部の建物が損壊被害に遭うなど修理費負担が尾を引いている。3年目でやっと収穫できたシイタケ栽培は、放射能汚染と原発風評被害でダメージを受け、今も除染作業を強いられている。僕らの希望を奪った東電に損害賠償を求めたい気分だが、現実には無理だろう。ぶつけようのない怒りを抱きながらも、同じ被災当事者として被災地で増えているアルコール依存症者や微妙な亀裂を生んでいる家族の皆さんに、せめて潮騒から希望のメッセージを運べないかと思う。(市)

発行所 郵便番号一五七〇〇七三
東京都世田谷区砧六―二六―二一
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 (会費を含む) 定価一〇〇円

今月も善意の献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。